

斐太北小 ESDだより

Education for Sustainable Development(持続可能な社会の創り手を育む教育)

世界人権デーに寄せて —「呼び方」から考える、多様性と人権—

12月10日(水)は世界人権デーです。この日は、すべての人が「一人の人として大切にされる」ことを、世界中で確かめ合う日です。斐太北小学校では、世界人権デーに寄せて、12月4日(木)に、学年の発達段階に応じた人権学習を行いました。

低学年・中学年…多様性を『体験』する学び

低・中学年では、上越国際交流協会から紹介していただいたフィリピンご出身の大崎喜ジェナリン様と他2名の講師をお招きし、文化や言葉のちがいにふれるワークショップを行いました。「ちがい」は、こわいものではなく、知ることで心が広がり、やさしくなれるもの。「ちがいを楽しもう」「相手の気持ちを想像すること」というメッセージが、体験を通して実感に変わった時間となりました。

これは、ESDが大切にする多様性の尊重(SDGs10)・平和と公正(SDGs16)につながる学びです。



- ・フィリピンの文化と日本の文化がどちらも違っていてびっくりしました。シッパという遊びが楽しかったです。
- ・夏休みに宿題がないので、フィリピンに行きたいです。うらやましいです。似ているところもありました。
- ・勉強してテストでいい点を取ると、ポイントがたまって、学校で買い物ができるのがいいなあと思いました。
- ・新潟県妙高市からフィリピンまで7時間かかると知りました。
- ・午前中働いて、午後から学校に行く子どもたちがいることがわかりました。家の仕事を手伝っているのだそうです。
- ・英語を勉強して、いつかフィリピンに行ってみたいです。セブ島の砂が白くてびっくりしました。
- ・フィリピンクイズで、自然にできたチョコレートの山みたいな地形があると聞いて、写真を見てびっくりしました。

高学年…いじめを「自分ごと」として考える

高学年では、スクールロイヤー(学校弁護士)の田中淳哉様を講師に迎え、いじめについて学びました。

いじめは、いけないと『知っている』だけではなくなりません。大切なのは、『それを見たとき、自分はどうするか』です。法律の視点から、いじめは人権を深く傷つける行為であること、悪意がなくてもいじめは成立すること、周囲の行動が状況を変えられること、を学び、「行動する責任」について考える時間となりました。

また、お互いを尊重するために必要な力として

- ✧ 相手のことを想像する力
- ✧ 気持ちを伝えあう対話の力
- ✧ 自分の気持ちや行動を制御する力

を大切なメッセージとしてお話しいただきました。



- ・田中先生のお話を聞いて、いじめは改めてダメだと思いました。また、いじめが法律と関係することが驚きました。損害賠償などを請求されることは想像できただけど、いじめが法律で定められているのを知って、驚きました。そして、相手の気持ちを想像することが大事だと思いました。
- ・田中先生のお話を聞いて、「心のコップ」が満タンになると、不登校や自殺をしてしまうのだということを初めて知りました。また、いじめの法律があることを初めて知りました。社会で学んだ「日本国憲法」が出てきてびっくりしました。お互いを尊重するための3の力がとっても大事って分かりました。改めて、いじめがよくないことだと実感しました。
- ・今日田中さんのお話を聞いて改めて分かったことは、「いじめの定義」です。相手が嫌だと感じたらいじめだということが改めて分かりました。私は、自分の一言で相手の心のコップをあふれさせてしまうことがあるかもしれないと自覚したので、これから気を付けていきたいです。そしていじめられている子、いじめている子、面白がる子、見ている子にならないように、その対策をがんばりたいです。

斐太北小学校では、世界人権デー当日、校長が昼の放送で子どもたちに次のように語りかけました。「人権とは、難しい言葉ではなく、『その人の気持ちを大切にすること』『自分も大切にされていいと思えること』です。世界人権デーは、『どうしたら、みんなが安心してすごせる学校になるかな?』を考える日です。」

特に話題にしたのが、「呼び方」と人権です。呼び方は小さなことに見えるけど、その奥には、その人を尊重する心があると子どもたちに気付いてもらおうと考えました。

友だち同士での呼び捨てやあだ名呼びは、お互いが「いいよ」と思っているなら問題にならないこともあります。しかし、「イヤだ」と思っている人が一人でもいたら、それは人権を大切にしていくことになる。友達に対しても、先生に対しても同様。…と、最近の事例を出しながら、はっきりと子どもたちに伝えました。

また、授業中に「さん付け」をすすめている理由について、「学校は、みんなで学ぶ場所。社会に出たとき、自然に人を大切にできる人になってほしい」という、社会につながる視点も示しました。

ESDとしての価値 人権は「やさしさの力」

世界人権デーの取組を通して、子どもたちは、「自分の気持ちを大切にすること」「相手の気持ちを想像し、尊重すること」「イヤだと言わされたら、行動を変える力」を育んでいます。

放送の最後に、こう締めくくりました。

「世界中の人に幸せにできる『やさしさの力』を、今日からまた一緒に広げていきましょう。」

人権は、誰かに与えられるものではなく、日々の言葉と行動の中で、互いに守り合うもの。これからも斐太北小学校は、一人一人大切にされる学校づくりを進めていきます。